

令和4年度

「運営に関する計画」

大阪市立東陽中学校

大阪市立東陽中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

現状と課題

「全国学力・学習状況調査」の結果より (令和3年度)

○結果の概要

令和3年度の全国学力・学習状況調査の結果においては、国語は全国比より7.6P低く、数学は全国比3.2P低かった。また、平均無解答率では、全国平均より国語・数学、それぞれ0.26P、0.15P、1.4P高い結果であった。

○分析から見てきた課題

学習に関しては家庭学習に取り組む生徒と取り組まない生徒との差がある。令和3年度の「全国学力・学習状況調査」では、「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合が4.6Pおり、放課後学習会等で個別の自主学習への支援が必要である。また、授業者側の項目では「めあて・ねらい」の提示や話し合い等、授業内容やICT機器の活用による授業の工夫も進めており、「全国学力・学習状況調査」の結果では、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」は、60.9Pで、校内アンケート調査では、昨年度結果より9.2P向上させることができた。

○今後の取組

落ち着いた環境で教育活動が学校全体で行われている。各教科で履修する内容を様々な学習方法や内容に関して、生徒にとって魅力ある授業づくりが行われている。

今後、学習に関しては予習復習を行う生徒の個人差が大きいことから、学習習慣定着のための支援が必要である。ICT等の更なる活用により生徒の興味関心を高め、一人ひとりの生徒へのきめ細かい指導や、入り込み等による習熟度別学習の充実が必要である。生徒が「主体的・対話的で深い学び」ができるように授業を進めていく。

学校元気アップ事業による放課後学習会の開催や、英語検定・漢字検定等の継続、学習に対する意欲の向上を図る取組みを進めていく。

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

○結果の概要

令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、50m走、20mシャトルランの平均記録が令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果よりすべての種目で向上させることはできなかったが、引き続き記録の向上ができるよう取り組んでいく。

【男子】	(R1) ⇒ (R3)	【女子】	(R1) ⇒ (R3)
50m 走	8.01 ⇒ 7.8	50m 走	8.53 ⇒ 8.9
20M シャトルラン	82.45 ⇒ 72.85	20M シャトルラン	62.25 ⇒ 44.85

・令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点は、93.7Pとなり、令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査の合計得点94.1を超えることはできなかったが、年間を通してさまざまな種目を取り入れ、基礎体力の定着だけでなく、運動やスポーツに対する関心や前向きに取り組む姿勢等を身につけながら、体力の向上に取り組んだ。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度のアンケート調査において「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかと言えば当てはまる）」と答える生徒の割合を70P以上に向上させる。
- 令和7年度のアンケート調査において「防災・減災・安全に関する教育を実施し、安全確保や事故防止に努めている」の項目について「当てはまる（どちらかと言えば当てはまる）」と答える保護者の割合を90P以上にさせる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合を、令和3年度調査より1P以上減少させる。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における各学年の合計得点を、全国平均比より向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度のアンケート調査において、「学習者用端末等のICT機器を授業で活用しましたか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を75%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、76.5%以上にする。
- ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては2日以上設定する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標(中学校)

- ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度（75.9P）以上に向上させる。
- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校の年度目標

- ・年度末の校内調査において「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度（64.3P）調査より向上させる。
- ・年度末の校内調査において「学校は、防災・減災・安全に関する教育を行っている。」の項目について、保護者の肯定的な回答の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標(中学校)

- ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度以上（48.1P）にする。
- ・中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標(中学校)

- ・大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 53P 以上（前年度 38P）に向上させる。
- ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を前年度以上（前年度 42.4P）にする。

学校の年度目標

- ・令和 4 年度の生徒アンケートで「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合を、昨年度より減少させる。
- ・令和 4 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を令和 3 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点より向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・年度末の校内調査において「学習者用端末等の ICT 機器を授業で活用しましたか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 75%以上にする。
- ・ゆとりの日については、月 1 回以上設定する。学校閉庁日については、休業期間毎においては 2 日以上設定する。
- ・令和 4 年度の校内調査において「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、前年度（78.7P）より増加させる。

3 本年度の自己評価結果総括

生徒は、ルールや規則、マナーを守ろうとする意識は高く、暴力行為を行う生徒もいないため、安心できる学校生活の環境が構築できている。しかし、長期欠席や遅刻など生徒の課題は多様化している。生徒を継続的に指導・観察していく必要がある。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、急な休校や休業措置に対して、ICT を活用して、情報発信・伝達の方法に取り組んだ。オンライン授業などの授業形態にも取り組むことができた。

チャレンジテストの結果から、教科によっては、生徒間の学力差は少し縮まった。また、授業での話し合う活動や考えを深めたりする活動について、生徒アンケートの結果から目標を達成することができたが、生徒間の学力差が縮まっていない教科もあり、授業改善がもとめられる。また、自主学習習慣確立のためには、日ごろから目的意識を持って学習に取り組む姿勢の育成も必要である。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、急な行事変更等が続いている。コロナ禍においても行事が安心安全に取り組めるよう教育活動を計画していく。

(様式2)

大阪市立東陽中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 全市共通目標(中学校) <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度(75.9P)以上に向上させる。 ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 学校の年度目標 <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査において「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度(64.3P)調査より向上させる。 ・年度末の校内調査において「学校は、防災・減災・安全に関する教育を行っている。」の項目について、保護者の肯定的な回答の割合を90%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 いじめ・差別を許さない学校づくりを推進し、いじめアンケート調査等・生徒教育相談を定期的実施し、生徒理解を深め、学習環境を整える。(生活指導部)	B
指標 いじめアンケート年3回実施、生徒教育相談年2回実施、Hyper-QUアンケートを実施。今年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合100%を目指し、生徒の教育環境を整える。	
取組内容②【基本的な方向番号、名称】 こども相談センター、警察機関、区役所(子育て支援室)やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーとの連携や相談し、生徒の安全・安心な学習環境の構築に取り組む。 (生活指導部)	B
指標 東成区学警連絡会等で生徒の情報交換を行い、指導の方向性を確認することで、校内での暴力行為件数のゼロ件を継続する。	
取組内容②【基本的な方向番号、名称】 年間指導計画にそって、防災・減災に関する授業(講話、説明、地域防災訓練への参加)。「警備及び防災の計画」「学校安全管理マニュアル」等に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。 (健康教育部)	B

指標 火災想定避難訓練（年1回）地震想定避難訓練（年1回）救急救命法（AEDを含む）の講話（年1回）を実施する。ふれあい地域防災交流会を実施する。	
取組内容②【基本的な方向番号、名称】 校内のインクルーシブ教育の充実を図るため、支援体制を確立する。 <div>（特別支援担当）</div>	B
指標 障がいのある生徒一人一人に「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、その計画に基づいて効果的な指導や適切な支援を行う。	
取組内容②【基本的な方向番号、名称】 人権学習の年間計画を立て計画的実践し、人権に関する芸術鑑賞実施し、人権学習に取り組んでいく。 <div>（人権教育委員会）</div>	B
指標 芸術鑑賞前後に人権学習を実施する。	
取組内容③【基本的な方向番号、名称】 社会体験活動（職業講話、ボランティア活動等）実施し、自分の将来を考えるよう指導する。また、進路選択への情報提供をきめ細かく行う。 <div>（各学年）</div>	B
指標 社会体験活動（職業講話、ボランティア活動等）を実施し、また、高校体験等に積極的に参加させ、自分の将来の夢や目標を持てるよう指導する。	
取組内容③【基本的な方向番号、名称】 部活動体験や小中教職員の授業交流や清掃交流を実施する。 <div>（生活指導部、教務部）</div>	B
指標 事業後アンケート等での検証。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<div>・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は、84.3Pとなりを前年度（75.9P）以上に向上させることができた。</div> <div>・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より増加傾向にあり、減少させることはできなかった。</div> <div>・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合 25%から 50%を増加させることができた。</div> <div>・年度末の校内調査において「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合は 68.9P となり前年度(64.3P)調査より向上させることができた。</div> <div>・年度末の校内調査において「学校は、防災・減災・安全に関する教育を行っている。」の項目について、保護者の肯定的な回答の割合は、91.4P となり、90P 以上にすることができた。</div> <div>・令和4度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、11月までで認知したいじめについては、100%解消させている。</div> <div>・いじめアンケート3回、生徒教育相談2回、Hyper-QU アンケート、人権に関する芸術鑑賞実施し、人権学習に取り組んだ。</div> <div>・校内のインクルーシブ教育の充実を図るため、障がいのある生徒一人一人に「個別の教</div>	

育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、その計画に基づいて効果的な指導や適切な支援を行った。

- ・校内での暴力行為件数のゼロ件を継続するため、こども相談センター、警察機関、区役所（子育て支援室）やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーとの連携や相談を行い、指導の方向性を確認しながら取り組んだ。
- ・新たに不登校になる生徒を生じさせない、学級・学年集団づくりを進める。家庭との連携を深め、きめ細かい生徒指導を行うため、主任会・職員連絡会・運営の計画等での生徒情報共有、保護者・関係機関との連携、ケース会議、不登校対策委員会に取り組んだ。
- ・社会体験活動は、ふれあい公園清掃（1年生）実施した。2年生は、職業体験がコロナ禍のため実施できなかったが、職業や高校調べを通して、自分の将来を考えるよう指導した。また、進路選択への情報提供をきめ細かく行った。
- ・「警備及び防災の計画」「学校安全管理マニュアル」等に基づき、災害時に備えた訓練を実施した結果、生徒アンケート「防災・減災・安全に関する学習をする機会がある。」において、肯定的回答は93.9Pとなり、防災・減災・安全の意識向上に取り組んだ。

次年度への改善点

- ・学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合100%を目指し、学習者用端末を使ってのいじめアンケート実施や心の天気の利用、また、大阪市こどもサポートネットを活用していき、関係諸機関等とも連携を深め、主任会・職員連絡会・運営の計画等での生徒情報共有、保護者・関係機関との連携、ケース会議、不登校対策委員会に実施し、早期対応をできるよう取り組む。
- ・防災教育については、保護者・地域等と連携しながら生徒が主体的に取り組める防災・減災教育を継続して取り組む。
- ・中学卒業後の進路、自分の将来を具体的に考え、選択できる力を身につける取り組みを企画していきたい。また、平和学習や人権学習においても、さまざまな学習を通して、自分や周りの人の命・存在について考えを深めることができるよう取り組みを進める。
- ・不登校生に、少しでも学校とのつながり感じながら、学校生活や進路選択などのさまざまな事柄について前向きに考えることができるよう、家庭と連携を密に取れる体制を構築する。

(様式2)

大阪市立東陽中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標(中学校) <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度以上（48.1P）にする。 ・中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 ・大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を53P以上（前年度38P）に向上させる。 ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を前年度以上（前年度42.4P）にする。 学校の年度目標 <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の生徒アンケートで「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合を、昨年度より減少させる。 ・令和4年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点より向上させる。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 「自主学習習慣の確立」をめざし、放課後や長期休業中などの生徒自主学習時間を設定し、生徒の自主学習を支援する。（各学年）	A
指標 定期テスト前学年別放課後学習会。教員・学校元気アップ支援員等による学習サポート。年間各学年15回以上実施する。 令和4年度の生徒アンケートで「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合を、昨年度より減少させる。	
取組内容②【基本的な方向番号、名称】 小中連携による英語教育の推進。それぞれの学年の英語力の向上をめざす。また、英検IBAを1、2年生全員受検させる。（1年生はテストD、2年生はテストC）（英語科）	B
指標 英検IBAを受検し、1年生は5級以上、2年生は4級以上の英語力を有する生徒の割合を1年生は5級以上90%以上、2年生は4級以上の割合を前年度以上にする。3年生は、大阪市英語力調査におけるC E F R 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を53P以上（前年度38P）に向上させる。	

<p>取組内容②【基本的な方向番号、名称】 全ての学習の基盤となる言語能力等の育成を重視し、主体的・対話的で深い学びの視点から、学習・指導方法の普段の改善を図るための実践研究を行う。その中で、すべての授業において「本時(単元)の目標(めあて)」「本時(単元)のまとめ」をわかりやすく提示する</p> <p style="text-align: right;">(各教科)</p>	A
<p>指標 ・生徒アンケートを行い、「授業で、目標(めあて)やまとめが示されていますか」という項目において、肯定的な回答する割合を、90%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向番号、名称】 基礎学力の定着のため、授業を大切にする意識を持たせ、わかりやすい授業を推進し、国語、数学、英語の授業においては、ティームティーチングや習熟度別少人数授業を実施し、基礎・基本の定着と、発展的内容の指導の充実を図る。</p> <p style="text-align: right;">(各教科)</p>	B
<p>指標 今年度末の生徒アンケートにおける「授業がよくわかる」と答える生徒の割合を 85%以上にする。 今年度末の生徒アンケートにおける「授業を熱心に受けている。」と答える生徒の割合を前年度以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向番号、名称】 授業研究に伴う校内研修の充実：全教員が年 1 回授業公開を行い、授業力の向上に取り組む。校内研究授業週間を活用し、教員相互のスキルの向上を図る。</p> <p style="text-align: right;">(各教科)</p>	B
<p>指標 校内アンケートで「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」について肯定意見を前年度より向上させる。</p>	
<p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は、46.0P となり、前年度以上 (48.1P) にできなかった。 ・中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、3 年生は、国語も数学も前年度より 0.01 向上させることができたが、国語は変わらず、数学は 0.08 下がった。 ・大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) は、55P となり、目標の 53P 以上 (前年度 38P) に向上させることができた。 ・年度末の校内調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合は 53.8P となり、前年度以上 (前年度 42.4P) にすることができた。 ・令和 4 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点は、男子 36 点、女子 44.62 点となり、昨年度の合計得点、男子 39.35 点は上回ることができなかったが、女子 43.3 点より向上させることができた。 	

- ・令和4年度の生徒アンケートで「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合は、12.3Pを、昨年度12.8Pより減少させることができた。
- ・定期テスト前各学年放課後学習会や朝学習会を実施した。また、教員・学校元気アップ支援員等による学習サポートを実施したが、感染拡大で実施できない期間もあったが、「自主学習習慣の確立」16日に取り組み、学習習慣定着に取り組んだ。結果として、令和4年度の生徒アンケートにおいて「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合を、昨年度より減少させることができた。
- ・小中連携による英語教育の推進し、教員間の連携を行った。英検IBAを1、2年は実施し、1年生99名中、英検4級レベル以上が27名(27%)、5級以上が91名(92%)だった。2年生120名中、英検3級レベル以上が42名(35%)、4級以上が88名(73.3%)だった。
- ・全教員が年1回授業公開を行い、授業力の向上に取り組み、校内研究授業週間等を活用し、教員相互のスキルの向上に取り組んだ。結果、校内の生徒アンケートでは、「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」について肯定的回答が87.2Pとなり前年度より向上させることができた。
- ・各学年の学習棚にある学習プリントを活用し、教科・学年が連携することができた。
- ・すべての授業において「本時(単元)の目標(めあて)」「本時(単元)のまとめ」をわかりやすく提示するよう取り組んだ。結果として、生徒アンケートでは、「授業で、目標(めあて)やまとめが示されていますか」という項目において、肯定的な回答する割合91.3Pとなり、目標を達成できた。
- ・基礎・基本の定着のため、ティームティーチングや習熟度別少人数授業（理科、社会を除く）を実施した。また、発展的内容の指導の充実にも取り組んだ。結果として、今年度末の生徒アンケートにおける「授業がよくわかる」と答える生徒の割合を87.3%となり85P以上にすることができた。今年度末の生徒アンケートにおける「授業を熱心に受けている。」と答える生徒の割合は、85Pとなり前年度88.8P以上にすることができなかったが高水準を維持している。
- ・部活動体験、生徒会による学校紹介などの小中連携の取り組みを進めた。

次年度への改善点

- ・基礎学力の定着のため、効果的な習熟度授業の進め方や来年度に向けての評価の見直しに取り組んでいく。
- ・自主学習習慣確立のため、定期テスト前各学年放課後学習会や朝学習会を継続的に取り組んでいく。また、教員・学校元気アップ支援員等による学習サポートも継続的に実施していく。

(様式2)

大阪市立東陽中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 【ICTの活用に関する目標】 ・年度末の校内調査において「学習者用端末等のICT機器を授業で活用しましたか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を75%以上にする。 【教職員の働き方改革に関する目標】 ・ゆとりの日については、月1回以上設定する。学校閉庁日については、休業期間毎においては2日以上設定する。 ・令和4年度の校内調査において「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、前年度(78.7P)より増加させる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号、名称】 学習者用端末等の ICT 機器を授業で活用し、生徒の情報活用能力を向上していく。 (各教科)	指標 年度末の校内調査において「学習者用端末等の ICT 機器を授業で活用しましたか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 75%以上にする。	B
取組内容②【基本的な方向番号、名称】 ゆとりの日を設定（定時退勤）や休業期間中の閉庁日を設定し、長時間勤務にならないよう教職員の働き方改革を推進する。（管理職）		
指標 ゆとりの日については、月 1 回以上設定する。学校閉庁日については、休業期間毎においては 2 日以上設定する。		B
取組内容③【基本的な方向番号、名称】 読書文化の継承と更なる推進（朝読書、ブックトラックの活用、図書紹介）を実施する。また、区役所と連携して電子書籍を活用した読書活動を取り入れる。（教務部）	指標 令和 4 年度の校内調査において「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、前年度（78.7P）より増加させる。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
積極的に、学習者用端末等の ICT 機器を授業できるよう、学習者用端末の充電器や ICT 機器環境を充実させることで、毎日の学習者用端末の活用率 100%を維持することで生徒の情報活用能力を向上に取り組んだ。その結果、年度末の校内調査において「学習者用端末等の ICT 機器を授業で活用しましたか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は 75.3%となり、75%以上を達成することができた。		

ゆとりの日を設定（定時退勤）や休業期間中の閉庁日を設定し、長時間勤務にならないよう教職員の働き方改革を推進し、ゆとりの日については、月 1 回以上設定した。また、学校閉庁日については、休業期間毎においては 2 日以上設定した。

読書文化の継承と更なる推進（朝読書、ブックトラックの活用、図書紹介）に取り組んだ。区役所と連携して電子書籍を活用した読書活動を取り入れた。結果として、令和 4 年度の校内調査において「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合 74.2% となり、前年度（78.7P）より増加させることはできなかったが、電子書籍など新しい取り組みを進めることができた。

次年度への改善点

ICT 機器を活用できる環境をさらに活用・整備し、心の天気など、生徒の心の変容や学習者用端末を活用した授業に取り組むことで、学びを支える教育環境の充実をさらに推進していく。

また、教職員の働き方改革を推進して、ゆとりの日を設定（定時退勤）や休業期間中の閉庁日を設定し、教職員のライフワークバランスを整るよう取り組んでいく。